

「うっとうしい、わずらわしい、めんどくさい」 の意味分析

加藤恵梨

キーワード 類義語、感情形容詞、うっとうしい、わずらわしい、めんどくさい

1. はじめに

本稿は、類義関係にある「うっとうしい」、「わずらわしい」、「めんどくさい」という三つの感情形容詞を考察対象とし、それぞれの意味及び意味の違いについて明らかにすることを目指すものである。「うっとうしい」、「わずらわしい」、「めんどくさい」はマイナスの感情を表す形容詞である。山口（1982: 210）で指摘されているように、日本語においてはプラスの感情を表す形容詞よりもマイナスの感情を表す形容詞のほうが多く存在する。このように、日本語ではマイナスの感情がさまざまな形容詞によって表現されるため、マイナスの感情を表す形容詞の意味及び意味の違いについて考え、明示する必要がある。しかし管見の限り、辞書の記述を見てもそれらが明らかにされているとはいえない。本稿で取りあげる三つの語においても同様である。よって、実例を分析することにより、現代日本語におけるこれら三つの語の意味及び意味の違いについて明らかにする必要がある。

2. 先行研究の記述とその検討

2. 1. 辞書の記述とその検討

はじめに、現代語の意味について詳細に記述されている『学研国語大辞典（第二版）』と『大辞林（第三版）』を見てみよう。

まず、「うっとうしい」は二つの意味が記述されており、一つめの意味は「〔気分・天候・物事の状態などが〕陰気ではられしない。」（『学研国語大辞典（第二版）』（1988: 161））、「重苦しく陰気である。心が晴れ晴れしない。」（『大辞林（第三版）』（2006: 233））とされ、二つめの意味は「〔ものがかぶさるようで

重苦しい。じゃまになって、うるさい。」(『学研国語大辞典(第二版)』(同))、
「じゃまでわずらわしい。妨げになってうるさい。」(『大辞林(第三版)』(同))
と記されている。

二つの辞書の記述を見ると、意味記述に大きな違いはないと考えられる。また、『大辞林(第三版)』の二つめの意味記述に「わずらわしい」が用いられていることから、「うっとうしい」には「わずらわしい」の意味と類似しているものがあると考えられるが、「わずらわしい」を介して説明したのでは「うっとうしい」の意味を明らかにしたということはできないであろう。

次に「わずらわしい」について見ると、「わずらわしい」にも二つの意味が記されている。一つめの意味は「人の心を悩ませる状態である。気の進まない状態である。気づかわしい。」(『学研国語大辞典(第二版)』(同:2117))、「心を悩ますことが多くて、気が重い。うんざりする。」(『大辞林(第三版)』(同:2741))とされ、二つめの意味は「込み入っていて面倒である。」(『学研国語大辞典(第二版)』(同))、「複雑でめんどうくさい。煩雑である。」(『大辞林(第三版)』(同))と記されている。⁽¹⁾

上の記述においても、二つの辞書の意味記述に大きな違いはないといえるであろう。『大辞林(第三版)』の二つめの意味記述を見ると、「めんどうくさい」という表現を用いて「わずらわしい」の意味が記されている。このことから、「わずらわしい」の意味に「めんどうくさい」と類似しているものがあることが確認できるが、やはり「めんどうくさい」を用いて意味を説明したのでは「わずらわしい」の意味が明らかにされているとはいえない。

最後に「めんどうくさい」は「手数がかかってやかいである。」(『学研国語大辞典(第二版)』(同:1932))、「手数がかかってわずらわしい。大変やかいだ。」(『大辞林(第三版)』(同:2509))と記されている。

「めんどうくさい」の意味においても二つの辞書の記述に大きな違いはないといえるが、『大辞林(第三版)』では「わずらわしい」を用いて「めんどうくさい」の意味が記述されている。この記述から両語の意味が類似していることは確認できるが、それらの意味の違いが明らかになるような記述をする必要があるであろう。

2. 2. 意味の違いに関する記述とその検討

次に、これらの意味の違いについて記されている辞書を見てみよう。

2. 2. 1. 「うっとうしい」と「わずらわしい」について

『現代形容詞用法辞典』(1991:80-81)では、「うっとうしい」の意味は「気

分がふさいで晴れず、不快な様子を表す。」と記され、具体的に「天気が晴れでないときの気分」や「かぶさってくるものがある、そのために気分がふさがれて不快である様子」を表すと述べられている。また、後者の「かぶさってくるものがある、そのために気分がふさがれて不快である様子」という意味は「わずらわしい」と意味に近いが、「わずらわしい」は煩雑で面倒だというニュアンスがあり、対象の範囲が広く、抽象的なものもとれる点が異なると述べられている。

上の記述では、「わずらわしい」の方が「対象の範囲が広く、抽象的なものもとれる」と記されている。しかし3節で示すように、実例を見ると「うっとうしい」と感じる対象も狭い範囲で考えることはできず、「わずらわしい」の方が必ずしも「対象の範囲が広く、抽象的なものもとれる」ということはできない。よって、両語のそれぞれの意味及び意味の違いについて再度考察する必要があるであろう。

2. 2. 2. 「わずらわしい」と「めんどうくさい」について

『現代形容詞用法辞典』(同:553)では「わずらわしい」と「めんどうくさい」の意味の違いについて、「『めんどうくさい』は実際に行ってみて手間がかかるので不快だというニュアンスではなく、行う前に手間がかかりそうだと予想するニュアンスで、しばしば行為を行わない暗示がある。この点で、行為をしたかしないかに言及しない『わずらわしい』と異なる」と述べられている。⁽²⁾

『現代形容詞用法辞典』では「めんどうくさい」の意味について、「実際に行ってみて手間がかかるので不快だというニュアンスではなく」と記されているが、実例を見ると次の例(1)のように、実際に行った結果、手間がかかるのでその行為をやめたと解釈することができる例も見られる。よって、「めんどうくさい」の意味および「わずらわしい」と「めんどうくさい」の意味の違いについて実例に基づいて考察する必要がある。

- (1)面倒くさいから絶えてやらなくなっていた新聞の切り抜き。今日(十一日)から再開する決意を新たにした。(中日新聞 2007年12月12日)

3. 意味分析

3. 1. 「うっとうしい」の意味分析

以下では、先行研究の記述とその検討をふまえ、「うっとうしい」の意味に

ついて分析する。

- (2)梅雨の季節がきます。じめじめした鬱陶しい時期ですが（後略）。
（東京新聞 2003年5月11日）
- (3)普通オープンカーというと布製の幌だから、冬や雨では室内が暗くてうっとうしい。
（<http://www.nikkei.co.jp/style/quick/0017/body2.html>）
- (4)そろそろ蚊の季節だ。刺されればかゆいし、耳元で飛ばれればうっとうしいし…。
（東京新聞 2007年5月10日）

例(2)から(4)を見ると、例(2)はじめじめした気候、例(3)は室内の暗さ、例(4)は蚊が飛ぶ音が耳元で絶えず聞こえることに対して「うっとうしい」と感じている。これらは、気候、室内の明るさ、蚊の飛ぶ音が主体にとって適切であると感じる範囲を超えていることに「うっとうしい」と感じているさまを表しているといえることができる。

続いて次の例を見てみよう。

- (5)70代の父は退職後、50年連れ添った母を亡くしてから、私に執拗に話しかけてきます。私が買いものに出かけ、帰りが少し遅くなるだけで、「心配した」と追いかけてきます。私は末っ子で、甘やかされて育った方だと思えますが、そんな父がうっとうしくてたまりません。
（読売新聞 2006年10月13日）
- (6)地上にそびえるのは、実は、地下に建設中の首都高速の換気塔。高さ約45メートル。付近の高層マンションをしのぐ高さです。約11キロの区間に16本が建設されています。(中略) 道路の中央にニヨキニヨキ、ニヨキニヨキ、ニヨキニヨキ、ニヨキニヨキ、ニヨキニヨキ、ニヨキニヨキ、ニヨキニヨキ、ニヨキニヨキ (16本)。文字で見ただけでもうっとうしい。
（http://blogs.yomiuri.co.jp/shashun/2007/04/post_e35d.html）
- (7)もとは短気な父であり、生意気盛りには手を上げられたことも一度ある。いない方がいい、うっとうしい存在であった時期もあった。
（朝日新聞 2007年11月2日）
- (8)自分が分からなくなりはじめ、何をするにも「～するにはまだ早すぎる」とか「それはダメだ」と言われ、大人どもは何をするにも邪魔をする。素直になれと言われたが、素直に「うっとうしい、消える」と言えば怒られ、時に殴られ、素直になることも、やりたいことも許されなかった。
（『難問・私を求めて』(2000：12-13)）

まず例(5)と(6)を見ると、例(5)は父の執拗な言動、例(6)は多くの「ニョキニョキ」という文字に対して「うっとうしい」と感じている。このようにここでの「うっとうしい」は、ある人の行為やある存在の数が、主体が適切と感じる範囲を超えていることによって生じる感情であるといえる。さらに例(7)と(8)を見ると、例(7)では怒ったり、手をあげたりする「うっとうしい」父が「いない方がいい」と述べられており、例(8)では大人に対して「うっとうしい」と感じることから「消えろ」と発言されているように、主体が適切と感じる範囲を超える行為や存在を不快に感じ、それを排除したいと感じているさまを「うっとうしい」と表しているといえる。

以上から、例(2)から(8)の「うっとうしい」は、ある対象が適切と感じる範囲を超えていることを不快に感じ、排除したいと感じるさまを表している。

よって、「うっとうしい」の意味を〈ある対象が適切な範囲を超えていることを不快に感じ〉〈排除したいと感じる〉〈さま〉と記述することができる。

3. 2. 「わずらわしい」の意味分析

以下では、先行研究の記述とその検討をふまえ、「わずらわしい」の意味について分析する。

- (9) ネット取引は税務当局からすれば、実態把握が難しく、個人から見れば取引が細かく申告が煩わしいというのが特徴だ。(中略) ネット取引でも、納税者を煩わしい申告手続きから解放する方策を検討してほしい。

(東京新聞 2007年6月9日)

- (10) (前略) しかし、それよりもっと現場が実習生を受け入れたがらない理由がある。それは、指導教官に限らず全教員が、何かとそうした「招かざる客」に付き纏われて、煩わしいと感じるからである。

(『陸封魚』(2001: 11))

- (11) 欧米ではチップが付きものだ。欧米の空港に着いてタクシーに乗車してからホテルに到着し、部屋にポーターが荷物を届けるまでチップに気を使わなければならない。本当に煩わしい。欧米ではサービス業に従事する人たちは基本給が極めて低く、チップで稼ぐ仕組みとなっている。我々はチップを払うことに慣れてないから煩わしいと感じるが、これはサービス料金であり、その金額はこちら側が決めればよいと考えればもう少し楽にチップがはらえるのではないか。(『国際ビジネスへの羅針盤』(2005: 183))

- (12) 静寂に包まれた部屋の片隅で、一日一日編んでいく。間違わないように目と手に集中していられるこの時間が、よこに安らぎをもたらしてくれた。

テレビをつけず、音楽も聞かず、ただ編むことだけに思考を注いでいると、頭が空洞化され、煩わしいことから遮断される。だからこの一時が一番落ち着けた。(『わたしから「私」へ』(2002:197))

まず例(9)と(10)を見ると、例(9)は労力を要する細かい手続きをすること、例(10)は「招かざる客」に付き纏われることを「わずらわしい」と感じている。これらは、自身の行為あるいは他者の行為を心理的に負担に感じることによって「わずらわしい」と表しているといえることができる。続いて例(11)においても、チップを払うという慣れない行為をすることを「わずらわしい」と表しているが、文中に「チップに気を使わなければならない」とあることから、チップを払うという心理的に負担となる行為を不快に感じるさまを表しているといえることができる。さらに例(12)においても、「わずらわしい」ことから遮断されることによって「落ち着けた」とあることから、「わずらわしい」は心理的に負担となる行為を不快に感じるさまを表していると考えられる。

以上から、「わずらわしい」の意味は〈心理的に負担となる自身あるいは他者の行為を〉〈不快に感じる〉〈さま〉と記述することができる。

3. 3. 「めんどくさい」の意味分析

最後に、「めんどくさい」の意味について先行研究の記述とその検討をふまえて分析する。

- (13) 高校2年になっても欠席が続くため、母親がクリニックに連れてきました。診察の結果には、精神病などの精神障害の所見は見つかりませんでしたが、問診に対しては、「なにをするのも面倒くさい。なにも熱中できるものがない。なにもしないで寝ているのが一番いい。将来のことはなにも考えていない」と答えます。(『気づいて!こどもの心のSOS』(2006:433))
- (14) 散歩に行きたがらない理由は、大きく分けて2つある。1つは腰痛や腹痛など、カラダに不調があるケース。これは、老化によるものと病気の場合があるので、早めに獣医師に相談するといふ。
- もう一つは面倒くさいなど、やる気そのものがないケース。散歩に行きたい欲求がなければ、おっくうなのは当然のこと。原因は、気持ちの問題である可能性もあるのだ。(『高齢犬のキモチがわかる本』(2007:34))
- (15) (前略) 五文型だと(1)はSVO、(2)はSVになりますから、なんとか構造の違いを表すことはできるのですが、直接構成素分析だと、他になんか工夫をしないとすると、二つの文の構造が違うのだということ表現すること

ができないのです。

「ま、その、こっちはa bookという目的語があって、こっちのほうは、very wellは副詞ですよね」とかなんとか言ってごまかすのもむずかしいでしょう。「それなら、わざわざこんな面倒くさく枝分かれなんかさせなくってもいいんじゃないですか」と切り返されるのがオチです。

(『生成文法がわかる本』(2000: 39))

- (16) 面倒くさいから絶えてやらなくなっていた新聞の切り抜き。今日(十一日)から再開する決意を新たにした。(=1)

まず例(13)と(14)を見ると、例(13)は文中に「なにをするのも面倒くさい。なにも熱中できるものがない。」とあり、例(14)では「面倒くさいなど、やる気そのものがない」とある。これらから、ある行為をするのに熱中できない、あるいはやる気がでないことによって「めんどくさい」という気持ちが生じていると考えられる。また例(15)では、する必要のないと感じている行為をわざわざすることに対して「めんどくさい」と表している。このように例(13)から(15)は関心をもてない自身の行為をしよう(続けよう)という気持ちが生じないことによって「めんどくさい」と感じているとすることができる。さらに例(16)では、「面倒くさいから絶えてやらなくなっていた」とあるように、新聞の切り抜きをしているうちに関心がなくなり、やめてしまったが、また関心がわき、再開することにしたということを表している。

以上から、「めんどくさい」の意味は〈関心をもてない自身の行為を〉〈しよう(続けよう)〉という気持ちが生じない〈さま〉とすることができる。

3. 4. 「うっとうしい」と「わずらわしい」

以下では、上の分析結果をふまえ、「うっとうしい」と「わずらわしい」の意味の相違点について考察する。

- (17) 前回の手紙のやりとりで、とくに〈他人〉に対する態度を通じて、二人の違いが浮き彫りになりました。私にとって、他人とは鬱陶しいもの、煩わしいもの、よってなるべく避けるべきものなのです。

(『やっぱり、人はわかりあえない』(2009: 46))

- (18) 梅雨の季節がきます。じめじめした鬱陶しい(??わずらわしい)時期ですが(後略)。(=2)

- (19) 自分が分からなくなりはじめ、何をするにも「～するにはまだ早すぎる」とか「それはダメだ」と言われ、大人どもは何をするにも邪魔をする。素

直になれと言われたが、素直に「うっとうしい (??わずらわしい)、消えろ」と言えば怒られ、時に殴られ、素直になることも、やりたいことも許されなかった。
(=8)

まず、例(17)は他人との関わりについて「うっとうしい」あるいは「わずらわしい」と表しており、両語には大きな意味の違いはないと考えられる。よって、「うっとうしい」と「わずらわしい」はある人の行為に関して生じる感情を表す場合に意味が類似している。そのため、例(18)のようにある人の行為に関するものでない場合には「うっとうしい」を「わずらわしい」に置き換えると不自然な表現となる。また、例(19)はある人の行為に関して「うっとうしい」と感じているが、これを「わずらわしい」に置き換えると不自然な表現となるであろう。これは、「わずらわしい」は排除したいと感じるという意味を有していないため、「わずらわしい」と「消えろ」とが共起しないことによると考えられる。

以上から、「うっとうしい」と「わずらわしい」は、ある人の行為に関して不快に感じるさまを表す場合に意味が類似している。しかし、その類似点の中でも、「わずらわしい」は「うっとうしい」のように「排除したいと感じるさま」という意味を含まないという点で、両者は異なっている。

3. 5. 「わずらわしい」と「めんどくさい」

続いて「わずらわしい」と「めんどくさい」の意味の違いについて考察する。3.2.と3.3.で記したように、「わずらわしい」は自身あるいは他者の行為に関して生じる感情であるのに対し、「めんどくさい」は自身の行為に関して生じる感情であるという違いがある。以下では、特に自身の行為に関して「わずらわしい」あるいは「めんどくさい」と感じる場合、両語にどのような意味の違いがあるのかについて考察する。

(20)話を聞くのが「苦手、聞くヒマがない、聞きたくない、煩わしい、面倒くさい」というのでは裁判関係の仕事はできない。

(『新・司法書士を生きる』(2003:229))

(21)会社にいれば、やはり何だかんだいって煩わしい (?めんどくさい) 人間関係は、受け入れなければならない。

(『あまり人とかかわりたくない』人のための心理学』(2009:55))

(22)今は文字を読む気になれない、面倒くさい (??わずらわしい) などという人、(後略)。

（『プチ認知療法で「デカうつ」を「ミニうつ」にしちゃうノート』（2010：19））

「わずらわしい」と「めんどうくさい」は例(20)のように、自身の行為に関して生じる感情を表す場合、意味が類似している。しかし例(21)のように、会社の人間と関わることを「わずらわしい」と感じながらもそれを「受け入れなければならない」と表現することは可能であるが、この「わずらわしい」を「めんどうくさい」に置き換えると不自然な表現となるであろう。これは、「めんどうくさい」は心理的な負担を感じるという意味を表さないため、「めんどうくさい」と「(心理的に負担であることを)受け入れる」という表現とが共起しないことによると考えられる。さらに、「めんどうくさい」はある行為に関心が持たず、進んである行為をする気が起きないという意味を表すため、例(22)のように「今は読む気になれない、面倒くさい」と表現できる。しかし、「わずらわしい」はある行為を心理的に負担に感じることによって生じる感情であるため、「わずらわしい」と感じる明確な根拠が示されない「今は読む気になれない」といった表現とは共起しない。

以上から、「わずらわしい」と「めんどうくさい」は、自身の行為に関して生じる感情を表す場合に意味が類似している。しかしその類似点の中でも、「わずらわしい」は心理的に負担に感じるさまを表すが、「めんどうくさい」はそのような意味を含んでいないという違いがあるといえることができる。

3. 6. 「めんどうくさい」と「うっとうしい」

さらに、「めんどうくさい」と「うっとうしい」の意味の違いについて考察する。

(23)自分が分からなくなりはじめ、何をするにも「～するにはまだ早すぎる」とか「それはダメだ」と言われ、大人どもは何をするにも邪魔をする。素直になれと言われたが、素直に「うっとうしい (??めんどうくさい)、消える」と言え怒られ、時に殴られ、素直になることも、やりたいことも許されなかった。 (=19)

(24)面倒くさい (??うっとうしい) から絶えてやらなくなっていた新聞の切り抜き。今日（十一日）から再開する決意を新たにした。 (=16)

上で見たように、「うっとうしい」は「排除したいと感じるさま」を表すが、「めんどうくさい」はそのような意味を有していないため、例(23)の「うっとうしい」を「めんどうくさい」に置き換えると不自然な表現となる。さらに例(24)

のように、「めんどくさい」と感じ、関心がなくなったことも、再度関心が生じることで「再開する」こともありえるが、「うっとうしい」は「排除したいと感じるさま」を表すため、「再開する決意を新たにした」といった表現と共起すると不自然な表現となる。よって、「めんどくさい」と「うっとうしい」の意味が類似しているとはいいがたい。

4. まとめ

以上の分析の結果は次のようにまとめることができる。

- 「うっとうしい」：〈ある対象が適切な範囲を超えていることを不快に感じ〉〈排除したいと感じる〉〈さま〉
- 「わずらわしい」：〈心理的に負担となる自身あるいは他者の行為を〉〈不快に感じる〉〈さま〉
- 「めんどくさい」：〈関心がもてない自身の行為を〉〈しよう（続けよう）という気持ちが生じない〉〈さま〉

注

- (1) 『大辞林（第三版）』では「わずらわしい」に四つの意味が記されている。本文中にあげたものの他に、三つめの意味として「気がおける。けむたい。」、四つめの意味として「体の具合が悪い。」があげられている。しかし、三つめと四つめの意味は現代語の意味とは考えられないため、本稿ではこれらの意味を取り扱わないことにする。
- (2) 『使い方の分かる類語例解辞典』（1994：248）では、「めんどくさい」について「『煩わしい』とほとんど同意で使われ、面倒でいやだと思う気持ち、避けたいと思う気持ちが含まれている。」と説明されている。このように、両語に意味の違いがあまりないと考えられている先行研究も見られる。

引用文献

金田一春彦・池田弥三郎（編）（1988）『学研国語大辞典（第二版）』学習研究

社

- 小学館辞典編集部（編）（1994）『使い方の分かる類語例解辞典』小学館
 飛田良文・浅田秀子（1991）『現代形容詞用法辞典』東京堂出版
 松村明（編）（2006）『大辞林（第三版）』三省堂
 山口仲美（1982）「感覚・感情語彙の歴史」『講座日本語学4 語彙史』森岡健
 二他（編）明治書院、202-227

例文出典

朝日新聞

インターネット上のホームページ

大崎晴由（2003）『新・司法書士を生きる』東京法経学院出版

木原梨沙子（2002）『わたしから「私」へ』文芸社

齊藤勇（2009）『「あまり人とかかわりたくない」人のための心理学』PHP研究所

下園壮太（2010）『プチ認知療法で「デカうつ」を「ミニうつ」にしちゃうノート』秀和システム

高橋幸仁（2005）『国際ビジネスへの羅針盤』文芸社

中日新聞

東京新聞

中島義道・小浜逸郎（2009）『やっぱり、人はわかりあえない』PHP研究所

日経ネット 〈<http://www.nikkei.co.jp>〉

星弘太郎（2001）『陸封魚』文芸社

星野早百合（2007）『高齢犬のキモチがわかる本』榎出版社

星野仁彦（2006）『気づいて!こどもの心のSOS』VOICE

町田健（2000）『生成文法がわかる本』研究社

村田秀行（2000）『難問・私を求めて』文芸社

読売新聞